

第3次寝屋川市子ども読書活動推進計画 第2回策定委員会

- 1 日時 令和2年8月19日（水） 10：00～
- 2 場所 保健福祉センター 5階会議室1・2
- 3 出席委員 上野委員長、尾崎副委員長、秋山委員、有山委員、
一柳委員、中川委員、松尾委員、西村（直）委員、
谷口委員
協力：教育指導課・高芝係長
（学校教育課教育指導課長・山口委員が欠席のため）
- 4 配布資料 ① 次第
② 議案書
③ 寝屋川市子ども読書活動推進計画（案2）
④ 「子どもの読書活動調査」を受けての分析
- 5 傍聴人数 1名
- 6 議案 別紙のとおり

【開会】

事務局（福谷）	<p>皆さま、おはようございます。本日は公私何かとご多忙のところ、ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。</p> <p>本日の司会を務めさせていただきます中央図書館の福谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは定刻になりました。ただ今より、第2回目の子ども読書活動推進計画策定委員会をはじめさせていただきますと思います。</p> <p>事務局といたしまして、本日は良中央図書館課長、ならびに寺西、坂口がご案内と出席させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>先立ちまして、良課長の方から…</p>
事務局（良）	<p>事務局の方から報告ということで。今日市関係の委員の皆さま方が6人欠席をされてます。これは急遽、市のほうで臨時議会が開催されることが、先週急に決まりまして、そのためにその対応をせざるを得ない課の委員さんの皆さま方がそちらの方に行ってるということでございますが、その内容は市にとっても非常に重要なことになりまして、いまコロナ禍と言われておりますが、市ではいろんな施策をとっております、その費用が国の方でみていただける部分もあるということを議会に図っていかなければなりません。もうすでに決まった、使ったお金とか、承認を得なければなりませんので、そちらの方も非常に重要な議会となっておりますので、欠席されているというわけでございます。どうかご理解のほどよろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
事務局（福谷）	<p>それでは本日の次第に従いまして、議事進行を上野委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。</p>

<p>上野委員長</p>	<p>ます。</p> <p>皆さま、どうもおはようございます。</p> <p>本日もどうぞよろしくお願いいいたします。皆さまの貴重なご意見をたくさん出していただきたいと思いますと思います。</p> <p>それではただいまから議事に入らせていただきたいと思います。</p> <p>その前に本日の会議の出席状況を事務局から報告お願いします。</p>
<p>事務局（寺西）</p>	<p>本日ご公務により欠席されております委員は、</p> <p>福祉部次長兼障害福祉課長 勝浦由紀子委員、</p> <p>子ども部子育て支援課長 白石みつこ委員、</p> <p>子ども部次長兼保育課長 中村誠委員、</p> <p>学校教育部学務課長 中村和寛委員、</p> <p>学校教育部教育指導課長 山口健司委員、</p> <p>社会教育部次長兼中央図書館長 西村洋一委員</p> <p>の6名でございます。委員15名のうち、現在9名の委員の出席をいただいております。寝屋川市子ども読書活動推進計画策定委員会規則第6条第2項の規定に基づき、過半数のご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告申し上げます。</p> <p>また本日学校教育部教育指導課係長の高柴健係長に寝屋川市子ども読書活動推進計画策定委員会規則第7条第1項の規定に基づき、会議にご参加いただいております。</p>
<p>高芝係長</p>	<p>おはようございます。本日代理で出席させていただいております教育指導課の高芝と申します。今日貴重な時間をいただきましてありがとうございます。それではよろしくお願いいいたします。</p>

【案件第1号】

上野委員長	<p>ありがとうございました。それではよろしく願いいたします。</p> <p>会議はただいま事務局から報告があるように成立しておりますので、さっそく議事をすすめたいと思います。</p> <p>まず本日の会議においてご意見を出していただく際は、挙手のうえ、お名前をおっしゃっていただきますよう、よろしく願いします。</p> <p>それから今日は傍聴は大丈夫ですか。</p> <p>はい、傍聴者がいないようですので、さっそく事務局の方から本日の式次第よろしく願いいたします。</p>
事務局（福谷）	<p>はい、着座にて失礼いたします。それでは、本日の配付資料の確認をさせていただきたいと思います。</p> <p>お手元ちょっと数が多いんですが、</p> <ul style="list-style-type: none">① 次第② 議案書③ 第3次寝屋川市子ども読書活動推進計画（案） <p>こちらは、前回お渡しした案から校正したものでございます。</p> <ul style="list-style-type: none">④ 「子どもの読書活動調査」を受けての分析 <p>3、4枚のものなんですけど、以上4種類の資料がお手元にあろうかと思います。</p> <p>過不足等ございましたら事務局までお申し出願いたいと思います。</p> <p>それでは、次第に従いご審議の方をよろしく願いいたします。</p>
上野委員長	<p>ありがとうございました。それでは皆さまのお手元</p>

事務局（福谷）

にあります次第に従いまして、議事を進めさせていただきたいと思っております。

まず前回の委員会で、案件第1号「第3次寝屋川市子ども読書活動推進計画（案）の修正箇所について」ですが、前回ご意見をちょうだいしました箇所を修正したとのことですので、事務局から報告をよろしく願いいたします。

はい、それでは確認になりますが、修正箇所を適宜ご報告させていただきたいと思っております。

まずは「読書活動推進計画（案2）」となっているものの表紙裏をご参照願います。はじめのところですが、上から5行目、「未就学児の頃に」の部分ですが、前回「二重否定の表現でわかりにくい」とのご指摘がございました。今回、ストレートにわかる表現の方がいいということで以下のように表現を変えております。読み合わせをさせていただきたいと思っております。

「未就学児の頃に読み聞かせをしていた家庭の子どもは、その他の子どもに比べて、本を読む子どもの割合が多いと指摘されています。」以上に修正しております。

もう一箇所、下から9行目のところですが、学校司書のスキルアップに触れた部分です。

「まず学校司書が配置されたことを明記してはどうか」というご意見をいただきました。そちらを受けまして次のように変更、明記しております。

「平成28年度より学校図書館に携わる学校司書を市内小中学校に配置しました。さらに学校司書等の専門性向上のための研修を実施し、図書館と学校との連携を強化しました。」

<p>上野委員長</p>	<p>以上に変更しております。</p> <p>「はじめに」の部分に関しましては以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ここの部分について何か皆さまの方でご意見はありますでしょうか。いかがでしょうか。</p> <p>よろしければ、このはじめの方、修正したようにさせていただきます。</p> <p>また他に修正箇所がありましたら、事務局の方からよろしく願います。</p>
<p>事務局（福谷）</p>	<p>続いて報告させていただきます。</p> <p>次は3ページをお開き願いたいと思います。</p> <p>「3. 第2次計画期間から現在に至る子ども読書活動推進事業の成果と課題」の中の「(主な成果)」の黒丸(・)3つ目、学校司書について触れた部分ですが、「平成30年度に3名配置され」を「3名増員され」に修正しております。</p> <p>続いて9ページをご覧いただきたいと思います。こちらに関しましては「幼稚園・保育所園・認定こども園・子育て支援センター・学校等における取組」の中の下から3つ目の学校図書館車に関する【成果】の部分の箇所です。</p> <p>「石津小・木屋小で移動図書館車を受け入れていきます。」と表現をしておったんですが、固有名詞を出さないということで、「市内公立小学校2校」と明記に変更してございます。</p> <p>以上でございます。</p>

上野委員長	ありがとうございます。ここの部分で何か皆さまの方からご提案なり訂正なりご意見ございましたらお願いいたします。
高芝係長	はい。
上野委員長	はい、どうぞ。
高芝係長	すみません、3ページ目の修正いただいた学校司書のところなんですけども、こちら28年度より4名、となってるんですけれども、28、29と6名配置となっております。30年度から増員で9名となっているんですけれども。
上野委員長	どうでしょうか、そこは。
事務局（福谷）	ご報告に基づきまして修正をさせていただきたいと思うんですが、もう一度、あのわたしが追っかけられなかったので、もう一度仰っていただけますでしょうか。
高芝係長	はい。3番の、ちょぼ（・）3つ目なんですけども、ここでは平成28年度に4名、29年度に2名増えたというふうに書いてあるんですよ。
事務局（福谷）	はい。
高芝係長	しかし教育指導課では、28年度から6名、そして30年度に3名増員。

事務局（長）	28年度に6名、次、平成30年度に3名増員された という言い方の方が…
高芝係長	はい。
事務局（坂口）	平成29年度に2名というのではなく、平成28年度 に一気に6名ということによろしいですか。
高芝係長	初年度から6名。
事務局（坂口）	承知いたしました。
事務局（福谷）	ありがとうございます。
上野委員長	よろしいでしょうか。では次の機会に訂正の方よ ろしくお願いします。 他にございましたら。
有山委員	はい。
上野委員長	はい、どうぞ。
有山委員	すみません、先ほど移動図書館のところで公立学 校名を挙げないというようなことでお話いただい たので、例えば5ページ、家庭地域における取組 の一番下の移動図書館のところには木屋小学校と石 津小学校の名称が残っているので、もし合わせるな ら公立小学校だけにしていただけたらいいのではな いかと思います。

事務局（福谷）	ご意見ありがとうございます。
上野委員長	こちらの方も、じゃあ次の…
事務局（福谷）	承知しました、固有の学校名は挙げずに、ということで、同等の表現でさせていただくということでさせていただきたいと思います。
上野委員長	<p>じゃ、ありがとうございます。事務局の訂正のほうよろしくお願いします。</p> <p>他にはよろしいでしょうか。</p> <p>よろしいようでしたら、次に移らせていただきたいと思います。</p>

【案件第2号】

上野委員長	<p>それでは、あの案件の第2号、第2次寝屋川市子ども読書活動推進計画の評価について質疑をさせていただきたいと思います。</p> <p>ここではどうでしょう。それともアンケートの結果を皆さまに配布していただいておりますので、そこから…</p>
事務局（福谷）	<p>そうでございますね。いま委員長からもご指摘がございましたが、2号案件に関するページといたしましては、4ページから11ページまでの内容についてご審議をいただきたいと思います。それとともに、冊子の25ページから今回各学校園に投げさせていただきましたアンケートと集約したものがございま</p>

	<p>す。そのアンケートをご一読、参照いただきまして、2号案件議案以下の内容につきまして、ご審議ご意見を賜りますとありがたいかな、と思っております。</p> <p>固い話になりますが、まずは4ページから11ページの内容で審議をしていただきたいか、と考えております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
上野委員長	<p>それではこの第2次のところですが、評価が挙げられております。この辺について皆さまのご意見・ご提案ございましたら…いかがでしょうか。</p> <p>ですから、4ページ、5ページ…11ページまででしょうか。</p>
谷口委員	<p>はい。</p>
上野委員長	<p>はい、どうぞ。</p>
谷口委員	<p>社会教育課の谷口です。よろしく願いします。</p> <p>この評価の部分なんですけど、この第2次の時には成果と課題という形で残ってたと思うんですけど、今回評価で丸とか三角で入れられてるんですけども、三角で評価をされている部分あっても、課題がない、とか成果と課題が両方書かれてある部分があったり、まちまちになってる部分があると思うんですけど、その内容についても成果が「行っています」、とかあまり具体的じゃない、とか多いと感じるんですけど。これはなんで今回評価を入れたんですか。その辺のことも踏まえてお聞きしたい。</p>

上野委員長	<p>いかがでしょうか、事務局の方、評価と成果というふうに、評価の部分で分けられているということですね、その辺でどうそれがされたのかということですか。</p>
事務局（坂口）	<p>こちらに関しましては、前任の館長玉川と、係長樋口、児童サービス担当の者で評価したものなんですけども、まず、成果と課題の違い、簡単に言いますと、「できた」とわたしたちが感じたところは「成果」、今後の…まだやっていかなければならないと思ったものは「課題」とさせていただきました。で、ちなみになんですけど、第1節それから第3節に関しましては、わたくしども図書館側で評価をさせていただきましたけれども、第2節に関しましては教育指導課などにお問い合わせをさせていただいた結果を反映させていただいております。</p>
尾崎副委員長	<p>はい。あの、評価の三角とか丸とかつけてたという部分なんですけど、実は第2次計画がスタートして、年度ごとにですね、どの程度、一年一年何か新しい改善をしていこうということで、1次計画の時よりもここをやろう、あそこをやろうと書かせていただいたんですけども、それができてるか、まだできてへんか、そういったことを市民の皆さまに毎年お伝えするために、丸とか三角を入れたやつを公表してたんなんです。それがいま、今度の成果と課題の中に評価も一緒に残ってるんだという風に思いますんで。ご理解いただきたいと思います。</p>
谷口委員	委員長。

上野委員長	はい。
谷口委員	<p>まあ、あの今のご意見のところ、第2次計画には評価がなかったということが、今回は評価を入れる、第2次の評価を入れるということで、その辺は進めるのかな、と思うんですけど、先ほども言いましたように、全体的に三角であっても丸であっても、成果と課題が両方入ってない部分があったりだとか、そういった部分も含めて、できるだけ共通した方がいいのかな、とそういう風には思います。</p>
上野委員長	その辺どうなんでしょうか。
事務局（福谷）	<p>委員長、副委員長、ありがとうございます。統一をできるだけ図った方がいいという件に関しまして、事務局の方で再度持ち帰りまして、最大限対応できるように内容を詰めたいと思いますので、また次回の審議会の時にご報告させていただきたいと思いません。</p>
上野委員長	他にここの部分で、何かご質問ありましたらいかがでしょうか。
高芝係長	はい。
上野委員長	はい。
高芝係長	すみません、あのここに挙げられているものは、市として行っていくという風な形で捉えて…昨年度

尾崎副委員長

末にお問い合わせを、この件についていただいたときに、具体例で言いますと8ページの下から2つ目なんですけども、「学校図書館のさらなる充実のため蔵書や管理システムの調査を行ってまいります」。管理システム、というのがどういったものなのか…。

はい。これは書き方がちょっと足らんかったかな、と思うんですけど、要はその学校司書さんを学校に入れていく中で、初年度、平成28年度から、そもそも学校図書館の司書の管理ってどうなってんねやろう、って一斉に調査をさせていただいたんですね。それで各学校ごとにカルテを作らしていただいて、本がこのぐらいあって…とか概略出してもらったことを書かせてもらってるんですけど、その一環の中で、例えば蔵書の管理システムをパソコンに入れてはるところがあるんですね。で、まったくそういうのやってなくて、ノートに手で書いてるだけ、ってところもありますんで、貸し借りとかの記録、貸出とかの記録、あるいは本の管理とか、そういったものについて、どういうシステムが入ってんねやろう、という調査をしました、ということなんです。だから、それぞれの学校に図書担当の先生がいらして、その何年か前の時にそういうのやらなくちゃ、っていうことで、それぞれ個々人の先生がいろんなシステムを自分で作ったりとか、なんかどっかから持ってきたりとかして、入れておられる学校がけっこうあるんですね。そういった学校において、そういったシステムが動いてんのかということ調べている、ということなんです。それが書かれてるんだと思います。

高芝係長	<p>課題のところ、「管理システムの構築に到っていません」というのは、そこには力を…そこまで予算をこちらの方では入れているわけではないので…調査のことなんですね。</p>
尾崎副委員長	<p>そう、調べて、調べた結果僕らは、例えば図書館のシステムと連動させるか、学校は学校でそれぞれバラバラでいくか、それは学校との、図書館との判断でええんですけども、そもそも学校で基本的にそういうシステム、何かしら統一したものを入れた方がいいよね、という判断があったので、そういうのはいずれ入れていかれへんか、という話があったんですね。でもそれは全然予算化にも到ってないですし、僕がいた時点でそうだったんで、そういうことが書かれてるんだと思います。</p>
高芝係長	<p>調査は毎年行っていますので、調査に関してはしているのかな、と思うんですけど。</p>
有山委員	<p>今のところでいいですか。たぶん指導課の違和感を持っておられるのは、学校としてもそうなんですけど、このおそらく「管理システムが構築されていません」というのが課題なのではなくて、各校の状況が、いま…まあ、言ったら様々あるので、それを言うたら、できたら将来的には市の図書館と連携する形で構築していけたらいいな、ということが取れるように書いていただけたらありがたいんですけども、いまは管理システムが構築していないことが、調査の結果としてわかった、ということが結果なのに、課題として直接書かれていることに違和感がある、</p>

尾崎副委員長

ということが言いたかったのではないかな、と。

それもそうですし、そもそもね、システム自体も現状ね、他市さんの学校図書館においてもね、割と体制がね、このシステム使ってんねん、みたいなものがまだないんですね。だから割と右へ倣えになりにくい状況でして、ですから例えば、たくさんの学校が、例えばこれを使う、という風になっていくと一気に進む可能性もあるかもしれないんですけども、いまんところ、ほんまにもうバラバラなんで、あの実はおもとの我々図書館自体も何パターンかのシステムがあるんですね、全国に。要するに運営している会社によって違うんですけど、ですから公立図書館でも全国統一されているわけでもないですし、それぞれの図書館がそれぞれのシステムで動いているという現状なんで、それを学校の図書館みたいな小さい規模の図書を置いてるところで、公立図書館のシステムをおろしてきても、やっぱりおかしいんですね。費用がかかりすぎるとか、いろんな問題があるんで。ですからどっちかというところ、もう少しミニマムな、小さいシステムで、お金かからへんシステムでっていうことで、各学校ですごく工夫されてるんですね。それをすごくパソコンのできる先生がいてはったところは、自分でエクセルとかを改良して作ってはったりとか、あるいはタダでインストールできるようなシステムを入れて使ってはったりとか、それぞれでやってる状況なんですね。それをどれでもいいんですけど、何かひとつのやつをいまやっていない学校にもそれを取り入れてやっていかれへんか、ってみたいな話をしてたんですね。それが

	<p>まだできてないと報告はしてたけども、こういう風に課題としてね、そこが、課題というた場合は「せなあかん」という前提にあって課題になるんで、だからそこは、なんていうか難しいところなんですけど。</p> <p>変な話、学校の図書館に司書さんが例えば毎日おったとして、その人が全部克明にね、例えばノートをとりはったら、システムいらんっちゃいらんいんです。だからそういう意味で必ずどこの学校にも必要かどうかというのも根本的な問題としてあるんです。ですから、それぞれの学校の判断でいくのか、どっかの時点で学校全体で統一したもんで動かしていくのか、いう問題が、まあ課題としてはそこがあるんかな、と僕は思ってた。</p>
秋山委員	<p>すみません、市民の秋山です。市民のわたしの方からの希望というか、こうなればいいなということなんですけど、例えば小学校や中学校にある蔵書と、図書館の、市全体の分を一緒にするというか、蔵書として全部寝屋川市の税金で購入されたものがあって、全部を統一して例えばおきがる号とかそういう司書さん、学校司書さんにお手伝いしてもらいながら、各学校でいろんな学校の本が借りられるっていう風なシステムがもしあれば、すごく素敵だな、というか理想です、と思ったんで、そういうところについてもお話を挙げていっていただけたら有難いんですけど。</p>
松尾委員	<p>さつき保育所の松尾です。わたしもちょっとご意見聞かせていただいとって、管理システムの構築ってなると、やっぱりこう寝屋川市の中である程度、</p>

こういう構想の元で進んでるかな、って取ってしまうし、すごいこの文章からやったら思うんですけど、いまのところはそういうことはない、というのはいまここでお話聞かせていただいてわかった、っていうところなんです。でもやっぱり文章からはそういう風にと取ってしまうところがあるかな、と思います。それといま秋山さんのほうが仰ってたけれども、わたしもこうシステムを構築するっていうたら、例えばその一箇所だけで例えば司書さんがいらっしやって、まあ、子どもたちが来た、でもその本がなかった、じゃあ、その司書さんがいろいろ調べて「ここにはあるよ」とか、まあそういうのが調べてくださった結果、そこに繋がってそこからまた貸していただけるとか、それが寝屋川市全体でできたらとてもすごく素敵だな、いうのいまの意見を聞かせていただいて感じたことです。

尾崎副委員長

あのお、えっとですね、まあ現状ね、今日現在また進んでるかもしれないんですけど、わたしのいた時点の話でいうと、あの、元々その学校それぞれで持っている本と、図書館の本とそもそもそれを例えばつなげて、どっかの本…図書館、学校でこの本が読みたいっていう子がいた時に、図書館の本を回せるようにするっていう話は、実は昔からありまして、あの、なんていうか図書館の本っていうのは、図書館にいまどんな本があって、その本があるんやけど、例えばいま書棚にあるか、貸出し中でいまある…登録としてはあるけど、読んでもらわれへんとか、そういったことは全部図書館…公立図書館にある本の方は全部わかるんですね。あの、図書館のホームペ

ージに蔵書検索ってあるんで、そこで見てもらった
ら学校の司書さんであれ、先生であれ、子ども自身
であれインターネットにアクセスできたらそれはわか
かってしまうんですね、簡単に。問題はその「図書館
にあるわ」って言うたときにそれを学校に届くシス
テムがないんです。幼稚園でもそうなんですけど。
だからそのところは前から課題やと思ってて、な
んとか運べる方法がないかな、って。いま子どもさ
ん個人が検索して、「この本ぼく読みたいねんけど」
って言って、図書館に言った場合は、図書館に行け
ば借りられるんですね。だけど学校にじっといてて
「本届けへんなあ」ってシステムにいまはなってい
るので、そこがむしろ改善点かな、ってこれからそ
ういう方向で進んでいけばいいな、っていうふう
には考えていました、僕らの時は。

秋山委員

秋山です、すみません。それでその場所に持って
いくっていうのが課題っていうことでお伺いしたん
ですけど、あとのアンケートにもつながることなん
ですけど、例えば香里園のほうにお住まいの方とか
東寝屋川にお住まいの方とかはやっぱり図書館が遠
いっていうので、どうしても香里園の方とかはツタヤ
に行ってしまうとアンケートに書いてあって、なか
なか足を運びにくくなってたんで、やっぱりそ
の学校というのは各場所にはあるので、そこでもし
貸借りができて、受け渡しとか予約本の受取りとか
ができれば、もっともっと図書館とかにある蔵書と
か、学校にある蔵書とかの利用者にもつながって
いくじゃないかなという風には思いました。

上野委員長	<p>ちょっとあの審議中の中でございますが、傍聴人の…傍聴したいという届け出がありました。●●●●さん。これは会議の傍聴に関する取扱要項第2条により許可を致します。よろしいでしょうか。</p> <p>はい、では。</p> <p>(傍聴人入場)</p>
上野委員長	<p>それでは、いまの…ただいまの件に関しまして、もっとご意見ございますでしょうか。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
谷口委員	<p>ま、いまご議論いただいているのは、今回3次計画…今度10何ページ以降の話をずっとされていると…。ま、いまのこの8ページに書かれている「管理システムの調査を行います」というのは、2次計画の28年から令和2年の、今年度までの施策を「調査を行います」、「システムの構築に至っていません」という課題が、これできてない。5年間かけて調査を行った結果、先ほどの議論の中で、システムが入っているところと入っていないところがあります、じゃあ、課題はそのシステムを全校的に入れていくんかいかへんのかがこの課題やと思います。それをじゃあ、今度17ページ以降に「学校における推進」、今回の計画でそのシステムを入れるんか入れへんのか。ってということが今回の計画がってということかなと思うんで、課題としてはその調査を行った結果、システムが入っていない学校が何校かあるんで統一を図っていきます、というのが課題かと思うんです。</p>

上野委員長	はい、どうぞ。
事務局（良）	<p>事務局から。ここに書かれている学校のシステムってというのが、それぞれ手作りでそのどういう蔵書がその学校にあるんやとことだけのシステムで、いわゆる電子化システム、ネットワーク化された、そういうものではない。将来的にはそういうのができたらいいんだけど、なかなか費用の問題があったりそういうこともあって、だからこのそのシステム…課題のところシステムと書けば、先ほどの谷口課長のほうから言っていたきました、それを求めてかなければならない、そのレベルまでまだ行っていない状況でありますから、ここの表現の仕方っていうのは、いま学校でどんな本があんねん、どういうことがあんねんと知る状況の、まず構築というんですかね。そういうものを学校の司書さんも9名配置されてますから、そのあたりの連携を取りながら、各学校の管理のよりよい仕方っていうんですか、そんなんを課題に挙げていくっていうので、やっていきたいなと考えてます。あの大きくシステム化、ネットワーク化されたシステム化っていうのはなかなか膨大な資金がいることなんで、まだそこまでの学校の図書館のほうも体制っていうのはでききれてないところがあるんで、ちょっとまだそれは先のほうになってしまうかもしれませんが、現段階での課題っていうのはよりよい管理の方向を連携して考えていくくらいで押さえといたほうがいいんじゃないかな、という思いがいたします。</p>
上野委員長	ありがとうございます。他になれば、わたしは

…わたしの捉え方は、課題ですから、次まだ3次があるわけで、課題はこの部分に関してはできなかった、十分に。それ課題というのは次に考えていくということで。

で、その貸出し…貸借りだけじゃなくて、いままでまあやっぱり学校に、学校司書の、司書がいなかったという現状が寝屋川ではあると思うんですね。でも今後やっぱり学校図書館、このアンケートを拝見してもやはり学校司書の必要性っていうのは非常にこのアンケートから読み取れるものがあったんですが、やっぱりその学校、今まではその学校司書もいなかった中で、公共図書館との連携が取れなかった、でも今後の寝屋川市としては学校司書をやっぱり常駐させていく方向で考えていってほしいというふうに思うんですね。本の貸借りだけじゃなくてこれが例えば、いろんな子どもたちが調べ学習の中でわからないことなんかを、例えば公共図書館でそういう風なものがきちんと整備されて、そういう情報も学校へね、流せるということも管理システムの中で重要なことですよ。本を持っていくだけのこと、蔵書を調べる…それはさっき公共図書館のネットを見ればわかる、という。でもそうじゃなくて、例えばこれはいつどこで誰がどういう目的、そのいろいろ研究のね、成果というものを公共図書館はいろんなところから情報を得てるわけで、それを学校図書館に流していくっていうことは子どもたちに非常に利益が得られる、ということで。

今後の課題としてやっぱりこれは三角印があろうが、丸があろうが課題という部分は、まだまだ課題で残っていて、ぜひとも十分に整うまでね、やって

	<p>いただきたいとわたしは考えて…だから3次のところでもう少し皆さんのご意見をね、伺いたいと思いますが。じゃあ、いままでのところ、第2次についての審議はよろしいでしょうか。次に移ってよろしいでしょうか。</p>
西村（直）委員	<p>1点。10ページなんですけど。この書き方の問題やと思うんですけど。下から3つ目の「障害のある子どもの図書館見学や職場体験を通じ」というところですけど、「あかつき園・ひばり園は中央図書館リサイクル市に来ています」っていうこの書き方が成果の書き方として…リサイクル市をされてて来られたことを成果というのが書き方としては望ましくない。例えば障害児者の施設との連携により参加を促進されて来ていただいた、ということで、そういう書き方をなされた方がいいのかなあ、と。ここは文言の見直しをしていただければと思います。</p>
上野委員長	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p>
事務局（福谷）	<p>また修正したもので、次回にご提案させていただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
上野委員長	<p>よろしいでしょうか。他にございますか。</p> <p>よろしければ先ほど申しました、子ども読書活動の調査ですね、ここに資料として載っておりますが、これをすぐに分析することはちょっとできませんので、図書館の方でこれを捉えているか、簡単にご説明をお願いしたいと思います。</p>

事務局（坂口）	次の第3号の目的と方針はよろしいでしょうか。
上野委員長	あ、そっかそっか。アンケートばかり気になっちゃって。先へ先へ。はい、すみません。

【案件第3号】

上野委員長	では、次は第3次の計画の基本的な考え方というところで、計画の目的・基本方針についてご意見をたまわりたいと思いますがいかがでしょうか。
事務局（福谷）	はい。3号案件に関しましては12ページでございます。基本と目的、計画の目的、基本方針ということになりますので、申し訳ございません、一読いただきまして、何か思い当るところ、ご指摘のところありましたらよろしくお願ひしたいかと思ひます。
上野委員長	よろしいでしょうか。 何かここで訂正なり、文言のところ何か気になるところがありましたら。 はい、どうぞ。
尾崎副委員長	あの、全体的な話なんですけど、計画の、3次計画の「計画の目的と基本方針」の中でね、2次計画の成果と課題を踏まえて、ていうことでお書きになっている、それは当然そうかな、と思うんですけど、そもそもね、例えば平成18年に策定を致しました第1次計画、それから28年かな、第2次計画とその2回計画を作ってきていて、今度3回目の計画を作ろうというときに、1回目は国の方針とかもありまして、要

するに未就学児ですね、学校に行く前の子どもさんたちのブックスタートっていうんですけど、そういったことにすごく力を入れていきましょう、と。当然子ども…18歳未満の、生まれてから18歳未満の子ども全部が対象なんですけども、まずは小さい子どもの読書の推進を図っていきましょうというのが、最初の計画の力点だったんですね。2回目の計画の時はそこはだいぶやれてきたんで、今度は学校に上がって以降の子どもたちの読書推進に力を入れていこうっていうのが、2次計画の主な力点だったんですね。ですから今度3次計画の場合、1次計画とか2次計画で取り扱って頑張ってきたその成果とか課題を踏まえて継続していくっていうのは当然や思うんですけど、3次計画では、今度はどういったことに、みんなやりながらですけども、今度はどういったことに力点を入れていくのかっていうことが、ちょっとあんまりはっきり書けてないなと思うんで。そこについては国も府もいろいろ出してますけども、別に寝屋川市版で寝屋川市独自のものがあっても全然構わないんで、成果と課題を踏まえて寝屋川市は3次計画でこういうところに力を入れていきたいということをもう少し書いていただいた方がいいんじゃないか、と。それが何になるかというのは皆さんで考えていっていただいたらいいんですけども。そこがどうしても3次計画をせつかく作るのにポイントが書かれていないというのはいかなものかなという風に思いますので、ぜひご検討いただきたいな、と思います。

上野委員長

いかがでしょうか。ただいまのご意見いかがでし

尾崎副委員長	<p>よう。</p> <p>書いてないっていうのはこの前文のところのことですか。</p> <p>そうですね、もう少し…それはいろいろ考えてはると思うんで、もう少しここにこういうことに、いままでのものはいままでのものとして成果としてやりながら、今回3次計画では新しく力点を入れていきたいみたいなことは。別にものすごく新しい感じがするもんでなくても全然構わないんで、ここに力を入れていきたいというのは少し書かれたほうがよくないかな、と。成果を踏まえて頑張っていきます、みたいなことだけやと、なぜ3次計画がいるんやという議論になってしまうので、そこはちょっと考えられたらどうかな、っていう風に思います。</p>
上野委員長	<p>いかがでしょうか、事務局。</p>
事務局（福谷）	<p>そうでございますね。それを踏まえて読書活動の分析というのも、これは事務局の方が分析を見ながらいまの現状を把握しているところでございますが、図書館を利用する子はする、しない子はしない、というのが大きな二分化されておる。しない子は行こうと思ったらなんぼでも時間を割いて行かれると思うんですけども、ご存じのように「多忙」。多忙の中にもいろいろありますけども、始終それぞれの子どもさんたちのあれによって行く機会がない、もしくは図書館の存在を知らない、というのがあって、そのあたりを一つ何かこう目を気づいていただける、もしくは何かこうちょっといっぺん行くことで、</p>

上野委員長	<p>こういうことが展開するんだ、と新しい世界を知ってもらいたいみたいな、ちょっと拙い言葉になりますけども、この辺りをわたしは分析の中から一つちょっと感じたところでございます。</p>
事務局（坂口）	<p>どうでしょう。もうちょっとここへ第3次の、どんなことを3次でやりたいか、ってことをもう少しここを言われたという風に思うんですが。皆様の中でもご提案いただきながら、もう少しここへ盛り込んだほうがいいのではないかと。3次でやるということは、という風にね、いま仰ったと思うんですけども。</p>
上野委員長	<p>もしよろしければアンケート結果の分析をお聞きいただきまして、その上でポイントは絞れるのではないかなと思いますので、そういった形で進めていくのはいかがでしょうか。まずはやはりいまの子どもたちの読書環境・読書状況というのを、現実を見た上での話かと思いますので、アンケートを踏まえた上でここをもう少しポイントをはっきりさせていくというのはいかがでしょうか。</p>
尾崎副委員長	<p>いかがでしょう、皆さん。どうしましょう。よろしいでしょうか。それとももう少し具体的なもしご提案があれば盛り込むという中で。</p>
尾崎副委員長	<p>まあ、あのアンケート分析っていうのはだいたいね、大阪府下でこの種のアンケートをしますと、だいたいこんなような感じの結果になります。ですから寝屋川市だけがすごく変わっているとかっていう</p>

ことではないんですね。全国的なものと大阪府はちょっと違う部分はあるんですけども、大阪府の中ではね、寝屋川市だけがどうこういうっていう、ものすごく特徴があるとかではないんです。で、このアンケートの結果を踏まえて、簡単に言うと事務局としてね、どんな風にしていこうという考えを持っているのか書いてないよ、って僕はさっきから言うてるんです。ですからこの場で皆さんが意見を交わして計画はある程度修正していったりね、それはできるんですけど、そもそも図書館なんかはこういった動向を考えた上でね、今後どうしていきたいと思っているのかっていうのがあるはずだと思うんですね。例えば一番後ろについてるA3一枚の横組みになっている推進計画の概要を見ますとね、今後の取組の方向性っていうのはそれぞれの部門ごとに書かれてるんですね。こういったことをしていきたいと思ってる、っていう取り組みたいと思ってる、って書かれてるんやから、こういったことをしていければなあと思えますと明確にあるわけやから、だからそれがさっき言うた基本方針のほうに…まあ、入ってるっちゃ入ってるけど、ちょっとなんぼなんでもザクッと括りすぎなんちゃうか、っていうことですね。ですからもう少しこういったことに力を入れていきたいんだ、ということを基本方針のところで書かないと、計画としてはちょっとどうなんかなとちょっと思うので申し上げたんですね。それがよりアンケートの分析なんかの結果、こういうふうにしていきたいって、例えば福谷係長さんが仰ったみたいにもっと子どもに図書館来てほしいっていうことがあるんであれば、その図書館に来てもらうためにどういう手を

上野委員長	<p>打っていくのが、今後の方向性だと思うんでそういったことがもうちょっと示せれたらどうなんかなっていうことで。</p> <p>他の方がいかがでしょうか。ただいまのことについて。ご提言ございましたらお願いいたします。</p> <p>じゃあ、もう少し検討いただくということで。もう少しここを具体的にねってことで。まだ時間がありますので。では検討していただくということでよろしいでしょうか。</p>
事務局（福谷）	<p>次回もう一度煮詰め直しましてご提案ということで、12ページのあたりつきまして、再度ご提案をさせていただきたいと思います。</p>
上野委員長	<p>よろしくお願いします。</p>
事務局（福谷）	<p>ありがとうございます。</p>

【案件第4号】

上野委員長	<p>それでは先ほどから申し上げました、今後のことにつきましてね、図書館のほうから幼稚園や保育園やそれから小中学校にアンケートを取られ、これは寝屋川としては初めてやられ、図書館として初めてやられたことかな、と思いますので、簡単に資料がお手元にあると思いますので、集計をした図書館のほうから簡単な分析、ご報告お願いいたします。</p>
事務局（坂口）	<p>失礼します、事務局の坂口でございます。ではま</p>

ず案2の24ページからと3枚綴りの「子どもの読書活動調査を受けての分析」をご覧いただきながらお聞きいただきたいと思います。

これを全部読み上げていきましたらちょっと時間がかかりますので、大体の傾向だけ申し上げたいと思います。

まずアンケートですけれども、公立保育園に通う3歳児の保護者の方、公立幼稚園に通う4歳5歳児の保護者の方、私立保育園・幼稚園に通う3・4・5歳児の保護者の方。それから市立小学校に通う1年生から6年生の各1クラスの児童、市立中学校に通う1年生から3年生の各1クラスの生徒。合計7,225枚配布させていただきました、回収枚数といたしましては6,154枚、回収率といたしましては85%ということで、こちらで集計させていただいております。

まず公立及び私立保育園・幼稚園に通う園児の保護者への調査結果から見れることなんですけれども、まずやはり普段から読み聞かせをしているご家庭が多いという印象を受けました。ご家庭で読み聞かせをしていますか、という問いに対して「よくしている」「時々している」と回答した方は全体の60%を占めています。読み聞かせをあまりしていない、という方に対して、それはなぜかという問いをいたしましたら、やはり時間がない、といった答えが大変多く占めておりまして、その他の理由といたしましては、子どもが絵本以外の遊びに興味を持っている、テレビなどですね、そういったことに興味を持っているという意見と、子どもがご自身で読んでいる、という答えも非常に多かったです。それから寝屋川市立図書館、私共のほうでは読み聞かせなどの

定例行事開催しております。そちらにご参加したことがありますか、という問いに対しては、ご参加されたことのある方は非常に少なかったです。あまりしていない、ですとか、ほとんどしたことがないと回答した人は全体の87%でした。その理由といたしまして、行事があることを知らなかったということが多いのと、図書館が遠いということ、あとやはり時間がない、体力がない、余裕がない、という回答も多かったです。普段から子どもを連れて私共の市立図書館を利用しているかという質問に対しては、ほとんどしていない、利用したことがない、と回答した人は全体の69%でした。その理由としてはやはり図書館が遠いですとか、通う時間がないという以外に、子どもが騒ぐので行きにくい、本を汚したり破らないか心配、兄弟が多く連れていくのが大変、休みがあれば違う施設に行くという回答も多かったです。

続きまして公立小学校に通う児童の方への調査結果です。こちら読書を好む児童というのが…すみません、アンケートといたしましては34ページからになります。読書を好む児童は低学年に比べて高学年のほうが若干の減少傾向にあるな、という印象を受けました。またこちら私共の市立図書館を利用したことのある児童は全体の40%程度でした。行ったことがないと言う人に対する質問で、それがなぜかということとは、ほとんど「その他」を選ぶ人が多くて、お父さん・お母さんが仕事で忙しいから、連れて行ってくれる大人がいないから、あとはめんどくさいという答えが多かったです。児童の方に学校の図書館に行ったことがありますか、という問いもありま

したけれども、行ったことがない児童が多くて、その理由としては、学校図書館に行っていない時がわからない、行っていいのかわからない、そもそも行っていいのかどうかもわからない、という答えが多かったです。あと寝屋川市の図書館や学校の図書館にどんな本があったらいいと思いますか、と質問に対しては漫画・アニメ・ゲームのタイトルが非常に多くほとんどを占めておりました。

次に40ページからの公立中学校に通う生徒への調査結果です。不思議な傾向が見られたんですけども、読書が好き、と回答した生徒さんが非常に多かったです。好き、どちらかというが好き、と回答した生徒は1年生では75%、2年生では全体の71%、3年生では全体の67%と大半を占めていたんですけども、実際に1日どれくらい本を読みますかの問いに対しては、2時間以上また1時間から2時間未満と回答した生徒さんは、1年生では12%、2年生では全体の18%、3年生では全体の14%と非常に低く、この辺りが整合性が取れませんでした。本を読まない理由といたしましては、本を読むことが嫌い、読みたい本がないが多く、その他の理由としては本を読むことそのものに意味を見いだせないですとか、面白くない、めんどくさい、興味がない、としている生徒さんが多かったです。あと寝屋川市立図書館を頻繁に利用している生徒さんも少ないという印象を受けました。普段、寝屋川市立図書館をどれくらいの頻度で利用しますか、という問いに対しては、1年に1回程度、利用したことがないと回答した生徒さんは、1年生で全体の70%、2年生で全体の75%、3年生で全体の79%を占めておりました。で、同時に寝

	<p>屋川市立図書館の行事に参加したことがある生徒さんはやはり非常に少なかったです。行事に参加したことがあるかという問いに対して、ない、と答えた生徒さんが1年生で86%、2年生で91%、3年生で92%とない方がほとんどでした。参加したことがない理由としては行事があることを知らなかったという回答が多かったです。どんな行事なら参加したいと思いませんか、の問いに対しては本の安売り、無料で飲食ができる行事、スポーツ、といった図書館とはちょっと違うような回答も見受けられました。あと中学校の生徒さんにも学校図書館を利用しているかどうかを問いかけましたけども、学校図書館を月に何回くらい利用していますかの問いに対しては、0回と回答した生徒さんが1年生で60%、2年生で66%、3年生でも66%を占めておりました。</p> <p>簡単な分析結果は以上でございます。</p>
上野委員長	<p>ありがとうございました。ただいまの簡単な報告と言いますか、それについてご意見ございましたら。いかがでしょうか。</p>
松尾委員	<p>すいません。</p>
上野委員長	<p>はい。</p>
松尾委員	<p>24ページの「公立保育園に通う3歳児の保護者」って言うことで対象者になってるんですけど、3・4・5歳です。</p>
上野委員長	<p>24ページですか。</p>

松尾委員	はい。対象のところが「公立保育園に通う3歳児の保護者」となっておりますが、3・4・5歳…。
事務局（坂口）	失礼いたしました。ありがとうございます。
上野委員長	これ訂正ですね。
事務局（坂口）	はい。
松尾委員	細かいですが「公立保育所」のほうがいいかな。で私立保育園さんのほうも「保育所園」のほうが。前のページのほうはそう書いてあって。
上野委員長	「所園」ですね。はい。 他に何か。文言で。訂正するような箇所ありますでしょうか。 はいどうぞ。
谷口委員	はい。いま配っていただいたこの分析って計画の中には書かないんでしょうか。
事務局（坂口）	すみません、いまのところは入れてなかったんですけども。あくまで事務局としての分析結果だったので、ちょっと入れるかどうか迷ったところもあるんですけども、入れたほうがよければ…
谷口委員	参考資料として挙げられてるんですけども、すべてアンケートの詳細を書かれていて、非常に見にくいと思います。例えばこの公立保育園に通う3・4・5歳児、上から1つ目、2つ目、3つ目までが一個の

アンケート調査、すべての〇〇の答えやと思うんですけど、それ読み解かんことにはわかりづらいですよ。だから公立および私立保育園・幼稚園に通う園児の保護者への調査結果ということは、この回収…対象については上から3つまですべての合計数ってことですよね。それをまとめたの結果やと思うんですけども、その合計数を例えばその下の回収結果の中に書いたり、小計として入れとく、まあ、その中に入れとくとかして書かんと、それをいちいち足さなあかんとかっていうのがわかりづらいというのと、あと計画の立て方としての話になるんですけども、大阪府のほうの第3次、いま現在の第3次の計画とかもアンケート結果というのは生の声でももちろん直近で一番これが参考になる話かと思うんですけども、この分析…こういう回答の方が何%占めてますよ、ということを書いたうえで詳細を書く、と言うのが実際の計画やと思うんで、この詳細のことだけ計画に挙げてても、あんまり意味はないかと。市の図書館としてこういうアンケートの結果、こういう分析してますよ、こういう結果が出てますよ、だからこういう風な計画をしていきたいですよ、っていうことを挙げるための参考資料やと思うんで、せっかくのアンケートの結果が中身だけを書いてて分析結果を載せへんのはどうかな、って思いますので。

事務局（坂口）

承知しました、次回までに盛り込んでいきたいと思えます。

谷口委員

もちろんこれだけ違って、後ろのブックスタート事業とか、いろいろなアンケート結果が書かれてい

	<p>るんですけども、それもすべて結果だけが書かれてて分析されてないんで、分析結果を書いたうえで詳細を書く、というふうな形にしていきたい。ただやりました、こんな結果でした、というだけの話になってるんで、この結果こういう風にしていきます、とかいうのを書いたほうがいいんじゃないかな、と思います。</p>
事務局（坂口）	<p>はい、ありがとうございます。</p>
上野委員長	<p>他にいかがでしょうか。このアンケートについてご意見ありましたら。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
有山委員	<p>啓明小学校の有山です。学校図書館…ページで言うと、学校図書館にどれくらい通っていますかという項目が、小学校・中学校にあります。わたしも事前に例えば小学校でしたら37ページ「学校の図書館にどれくらい行きますか」ということについての質問項目があって、それに対してお答えしている状況があるんですが、事前にわたしもこういう項目でっていうのを知っていながら、いま改めて結果を見て「ん？」と思ったのは、いまのこの時期の状況っていうのが、学校が非常に特殊な期間であるということについては、ちょっとそういうことをアンケートをするに当たって、ちょっと事務局にお伝えするのを抜けていたな、という風に思います。現実、学校の図書館はね、普段の状態で年間どういう風な状況であるかっていうのが、すみません、小学校も0がすごく多いっていう話で、授業で中学校は恐らく行っ</p>

ているってということが中心だと思っていますので、小学校も調査結果自身が割合がどの部分か、すみません、根拠が何かを持っていないのですが、その他のなぜ行かないか、という理由のところを、行ったことがないと言った人たち、38ページのところの間6、39ページの上ですけれども、コロナで行けないからとか、行っていい時がわからないという回答がけっこうあるというのを見まして、改めて、すみません、話が長くなるんですが。思ったのがこの7月の1学期の時期ってというのは、いま小学校は1学期からやっとレベル2になって学校を開くことができていくという状況で、学校の図書についても消毒が十分にできるという保証がないことから、とにかく手を洗わせて閲覧はするけども、教師の…言うたら引率の元、適切な距離を取ってものすごく管理された中で図書館の利用をやっとし出したような状況ってということがあります。昨年度でしたら自由に休み時間に図書委員会が貸出をしたり、お昼に開放したり、図書館の司書の先生が来ていただいているときは自由に歓談するような状況だったんですが、特別な状況の中で取っていただいたデータになりますよ、ということ、すみません、ちょっとわたしのほうが事前に事務局にお伝えしてたらよかったです、ちょっとそういう意味では、データ自体とかこの回答の部分で「行っていいかわからない」というところが、現実子どもの生のいまの声だかっていうふうに感じたので、ちょっとすみません、ちょっとそこそこだけお伝えさせていただけたらなと思って発言しました。

上野委員長	アンケートの実施期間にこの状況が、コロナのね、状況、ま、そこ全然触れてない…。
有山委員	学校の生が出るとしたらそのあたりで、他の図書館のこととかは、コロナのこととかは変わらず一般的な話として児童も答えてると思うんですが、ちょっといまのどこ答えてるのか、去年のことも含めて答えてるのかが、ちょっと子どものすみません、そういうことを言ってやれなかったので、申し訳なかったな、と。思って。すいませんでした。
上野委員長	どうなのでしょう。
有山委員	どうしたらいいかな、って。
事務局（良）	どっか、なんかそういうことを明記しておいたほうがいいかな、と。最初の読書活動の下のほうに…
有山委員	そうですね、もし書いていただいたら。学校図書館の利用状況を敢えて入れる必要があるのかなのか、と言うのもあるとは思いますが。あの、そこはちょっと皆さんに判断をしていただいたら。公立の図書館と言うことで、学校図書館の利用に割と取り上げていただいているんですけど、それは全体計画の中で必要かどうかと思う中で、いまの状況を含めてご検討いただいたらと思います。
上野委員長	これはまた大変な問題。公共図書館だから学校図書館には…でもどうだろ、子どもの読書環境を…ということになると、触れざるを得ないと思うんです

けどね。でないと実態がわからない。やっぱり中学生とか高学年になると、あの、公共図書館の利用よりは学校図書館、身近ですしね。ですからその状態がわからないと、子ども読書環境というところの全体像が見えてこられないから、まあ、たぶん学校図書館の状況も入れさせていただいたんだろう、と思うんですけどね。どうでしょうか。

事務局（坂口）

第2節、ページ数で言いましたら17ページですね。第2節には「学校における推進」という項目があるんです。17、18ページです。「学校における推進」というのがございますので、ここのところを考えるにあたって、やはり学校図書館での実情というのもお調べしたほうがいいかな、と思って項目は作りました。

事務局（良）

それはそれで、ですが。今年度は新型コロナの関係で学校図書館の体制も整っていない中で、ちょっとそういうことで普段の年度とは違う状況が生まれてるという可能性が高いということですから、その辺を市民の方から「なんや、学校全然、学校指導してへんやないか」言うような方向を考え方をされても…いま現在はすべてそういう配慮して、アルコールとかも対応して、あの貸出とかそっちのほうにも学校図書館の運営にも力を入れている段階で、この実施した時期、それが影響あるんちゃうかなあ、って言うことでよろしいですかね。だからそこんところが表現できたらいいかな、結果は結果として仕方ないと思うんですけど。

上野委員長	実施期間がね、それと重なっちゃったということで、それはもう当然…。
事務局（良）	だから本来の答えとは違う、そのコロナの影響にひっぱられたような、活動ができない状況の中で答えが出てきてるというのも思われている、ということを入言が入れば。
上野委員長	<p>文言入ったらいいでしょうけど。</p> <p>でも先生が仰ったのは、まあ子どもたちがいまは通常じゃない、でもその去年とか通常の時のことも覚えて書いてる場合もあるし、ということですから、でも、まあ、表記しておくほうが。この時期にたまたま重なっちゃったということでね、計画はあった、図書館としてはあったんでしょけど、たまたまこういうことにぶつかってしまったから、そういうことが入れなくちゃしょうがないし。ま、確実に分析とかね、それはアンケートはね、子どもたちの状況がわからないし。</p>
有山委員	そうですね。実施時期を書いていたので、殊更ということではあります、なので殊更入れていただくということを敢えて希望しているわけではないですが、ちょっと状況としてはそういうこともあることもあるということだけ、今後のお話の中でも出るかもしれないので、状況だけ聞いていただきたかったということ。
上野委員長	はい、どうぞ。

一柳委員

あの、いろいろなご意見を伺う中で考えてることだけを少しランダムですけどお話しさせていただきます。

今回、これを初めて大がかりにアンケートを取られたっていうことに関してはすごく大きな意義があるのかな、と思います。たまたま今回結果時期として、こんなが出ましたよ、ということなんでしょうけれども、これは来年度以降も同じようにこのアンケートを実施していく中でこの数値がどう変わっていくかを見れば、それはもう何を言い訳することもなく、ああそうだったんだよね、ってなっていくんじゃないかな、と思うのがこれが1つ。

この結果を元にまた先ほどのね、目的やら方針やらにかえていくんだらうとは思いますが、市の図書館にみんな来てもらうにはどういったら、どんな工夫やったらええんやろな、その実態がこんな引っ張り方できますよね、っていうのにリンクできたらとてもいいことだと思いますし、学校は学校で学校の図書室の蔵書も含めてね、先ほど全部それをリンクしたらいいですよ、って話も含めて、なんとなく全体像を作っていく中で、このアンケートを活用していくきっかけっていうのはね、大きくこれ成立していく気がします。

次はこの対象の中で、こんなことも考えられるかな、と思うのは、保育所・幼稚園などに通わせている保護者の、だいたい年齢層ってどれくらいなもんなんですかね。彼ら・彼女らは自分たちのどんな読書経験を持って親になっているんでしょうかね、っていうのも、なんかこれから先のね、アンケート項目の中に放り込んでいたりする部分に、なんか出て

	<p>くることもあるかな、って思ったり。その経験があくまでも、なんていうんでしょうかね、割と制限された年齢層でしょ。ですからそこらの方のこういう読書に関しての法のありようなんだ、考えようなんだ、っていうことが皆さんに伝わればいいかな、っていう風に思います。</p> <p>で、最後はこれアンケートの結果を分析されてこれ一緒に載せるって言うのは先ほどのご意見から非常に意義のあることと思います。加えてもしもデータそのものをもっと参考に掲載していくのであれば、ぜひ後ろ実数で取ってはるところを、パーセンテージのグラフにすればいいんじゃないかな、と思います。</p>
事務局（坂口）	そちらはすぐにできますので、はい。
一柳委員	ね。はい、だからそういったことでは見せ方っていうところで各傾向が見て取れるんじゃないかなと思います。そこからまた見えてくることもこの分析に付け加えることができると思いますので。またそういったことができたらこれが充実したものになっていくんじゃないかなと思って、ちょっと聞いておりました。すみません。
上野委員長	ありがとうございます。 <p>それではちょっと時間もあれですので、アンケートの件は、ま、もう一度考慮していただいて、検討していただくってことでご了承いただきたいと思います。</p>

【案件第5号】

上野委員長	<p>それでは次に第3次の第1節の部分でご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>1節、14ページから16ページですね。</p> <p>こちらではどうでしょうか、ご意見ございましたら。</p>
一柳委員	<p>よろしいですか。</p>
上野委員長	<p>はい、どうぞ。</p>
一柳委員	<p>ここでもたぶん先ほどの課題と成果というところにつながろうかと思うんですが。前半の1節からの、10ページまででしたかね、11ページまででしたか、の中で評価を踏まえて成果・課題って書いてあるものが、大方すべて17ページ以降…3章14ページ以降ですか、の中身とリンクしている気がするんです。ですので、この成果・課題をきちっと整理された上で、この中身、次の、今回の中身がちょっと精査できていくんじゃないかな、と思います。文言も含めて、たぶんリンクしていく、それは中身を見ていただくといいのかなあと思います。かけ離れた文言では全然ないです。</p> <p>どうかすると中身によっては同じやってっていうのが。ほな2期は一体なんやったん、みたいな。</p>
上野委員長	<p>他の方いかがでしょうか。</p>
尾崎副委員長	<p>ちょっといいですか。</p>

上野委員長	はい、どうぞ。
尾崎副委員長	<p>えっとですね、全般的に14ページ以降、実施区分のところで、継続っていうのと、拡充と新規ってなってるんですけど、で、まあ、一番多いのは当然ね、前からやってるし、今後もやっていくよ、っていう継続でいい、たくさんなるっていうのはいいんですけど、やっぱりその前に2次計画の時に、こういうことやります、っていうた中で、充分課題も残ったなっていっぱいある中でね、それをまた継続でやっていきますっていう風になるんだけど、そこでその課題を克服するために、継続やったら継続でもいいんやけど、どういうところにちょっと工夫を加えたいとか、或いは新規なんかの場合でもそのなんかの課題を解決するためにその新規のやつをやるんやっていう風な繋がりが文章的に見えてこないの、そこは意識して書かれたほうがいいんじゃないかな、って思いますんで。</p>
上野委員長	具体的には。例えばってところありますか。
尾崎副委員長	<p>例えばね、15ページの、例えば団体貸出ってあるんですけど、これ図書館がやってることなんですけど、「図書館では、小中学校への団体貸出利用の本の充実を図り、積極的に行ってききましたが、平成30年の大阪府北部地震以降、一旦中止を余儀なくされました。現在は段階的に再開しています。」っていう風になってるんだけど、これは元々やってたことがちょっといろんな事情があってできなくなって、でまた復活していますって流れなんですけどね。そ</p>

これは元々団体貸出の、あの、なんていうかな、その地震とかがない状態の時に、じゃあ、課題がなかったんかと言ったらそんなことはないので、むしろ地震ででけへんとか、コロナででけへんとか言うのはちょっとイレギュラーなことなんで、それはやがて解消するでしょう、ほなまた元に戻しますよ、と言うところでプラマイゼロなんですよね。でもその前の時点で団体貸出についても行けてる学校もあれば行けてない学校もあるとかいろんな課題があった中でね、その課題を意識して今後こんな方向で進めていきたいとか、なんかその同じ継続でもね、何かしら元々の課題を意識したような表現がないと全然なんか地震でストップしてたからごめんね、また再開してます、って言うだけやったら、あんまり意味がない。少なくとも3次計画に書く意味がないので、そこはやっぱり元々の課題を意識してやるっていうことが大事かな、と。

事務局（坂口）

ありがとうございます。

上野委員長

えっと、そうすると継続のところ、もう一度見直して。

尾崎副委員長

まあま、継続でもただ同じことをずっとやるよ、ってところもあるかもしれないけど、あの、ちょっと工夫してやっていきますってこともあるんであれば。

上野委員長

あるんであれば、ですね。

尾崎副委員長	うん。で、あんなあかんとこも課題から考えると いっぱいあるでしょうし。
上野委員長	ということだそうです。もう一度課題を含めて …。
事務局（長）	先ほど一柳委員のほうから仰った「リンクする」 っていう、その課題なんかと、第3次とだいぶリンク するっていうところと、尾崎副委員長が言われた ことは同じことやと思います。さっきの具体例のと ころの団体貸出っていうのは、ほんとはこちらの思 いとしたら市内の幼稚園・保育所、小学校、中学校 でどんどん団体貸出をやっていって、そこで図書館 の活性化もあれば、学校図書も活性化も含まれてく る、そういうのを目指していくべきで、そういう部 分を書いての継続っていうんですかね、もっとその 努力して団体貸出の市内的な協力を広げていくって いう書き方で継続、っていうそういう思いで継続っ て書きましたんで、そのような感じで第3次の継続 の中でもそういう視点で検証修正をしていきたいと 思います。
上野委員長	はい、ありがとうございます。では、そんな感じ でお願いします。 他にはいかがでしょうか。この部分で。
松尾委員	質問でいいですか。
上野委員長	はい、どうぞ。

松尾委員	<p>団体貸出は、小中学校への団体貸出してるとい うのはもう全校がされているから、小中学校って いうことで、保育所とかやったらまだしてない園もあ るから名前が入ってないという感じですか。</p>
事務局（良）	<p>小学校ってみんなやってる…。</p>
事務局（坂口）	<p>案内は最近また出し直して…</p>
事務局（良）	<p>借りられている…</p>
事務局（坂口）	<p>そうですね、実績としては全校がっていうわけ ではないです。</p>
松尾委員	<p>未就学の保育所も幼稚園も貸出しはしていただ いてますので、文言として入れていただければと思 います。</p>
事務局（坂口）	<p>わかりました。</p>
上野委員長	<p>では継続のところ、先ほどのようなご意見あり ましたけど、他にいかがでしょうか。拡充、新規。 なんかわたしは新規のところがよくわからない、 新規だったらなんか、もっと具体的に。例えば新規 のこの14ページの「図書館に通いにくい地域に地 域にいる子どもやその保護者にも、サービスが提供 できるよう体制を整えていきます。」とか具体的に なんなのか。次も「子どもが安心して」「スペース を確保」ってスペースってなんだろう、って。</p>

事務局（長）	<p>あのこの段階、案を作る段階でまだはっきりと打ち出せてなかったというのがありまして。最初に言われた「図書館に通いにくい地域にいる子どもやその保護者にも、サービスが提供できるよう体制を整えていきます。」っていうのは、もうちょっと具体的に書ける段階に来てますんで。何かとえば、「配送サービス」っていうことで。先ほど、秋山委員さんのほうが、もっと身近に図書を借りられる、そういうもんがほしい、というような意見を言っていたいただきました。それにたぶん応えていける一つではないかなと思うんですけど、特定郵便局っていうのが市内に26か所ありまして、本局も入れて27か所あります。</p>
上野委員長	<p>広報に出てましたね。</p>
事務局（長）	<p>はい。そういうところでの、予約をしていけばそこにこうその方が指定されたところに届けて、郵便局なり市民サービスセンター、シティステーションなりに取りに行っていただけで、また返却はそこにしていただけたり、っていうようなサービスを10月から実施できる動きをしておりますんで、その配送サービスのことをもう書いてもええかな、と思えますんで。</p> <p>その次の、下としては、これはまあ、後々期間…第3次の中でできるかっていうのもあるんですが、子ども図書館の構想というんですかね。</p>
上野委員長	<p>これをスペースっていう。</p>

事務局（長）	<p>だからそのスペースっていうのはそういう意味合 いで。まだこれを作ってたたっている段階では、ま だきっちりと打ち出せる時期じゃなかったというの もありまして。その辺を再度もうちょっと具体的に わかりやすくできる状況のものを検討していきたい と思いますんで。</p>
上野委員長	<p>それとその15ページの継続のところですけど、「図 書館が中学校と連携し、本の素晴らしさ、読書の楽 しさを実感してもらえらるような機会を設けていきま す。」ってこれもちょっと。よくわからない。どう いうことをされるのかなあって。継続ではあるんで すけど。今までどんな風なことをされてたのか、あ んまりよく…。</p>
尾崎副委員長	<p>はい、たぶんね…。まあ一部の中学校で実施した 中学生の生徒さんに対する絵本のひろばとかそうい うのをやった事例がありますので、そういったこと を意識して書いてるんじゃないかと思うんですけど …。その方法に限らないですけど、そういった機会 をいろいろと今後も設けていきたいってということや と思うんですけど。</p>
上野委員長	<p>あんまり継続として実感はないんですけど、継続 の事業として。まあでも成果はあがってるわけです ね。</p> <p>ほかにどうでしょう。</p>
秋山委員	<p>14ページの継続になっているんですけど、寝屋川 市の公式SNSを使い積極的に発信していきますと</p>

事務局(坂口)	<p>いうところがあるんですけども、こちらは寝屋川市の公式ホームページの方からリンクして、例えば図書館のホームページに繋がるとかということではないのでしょうか。</p> <p>ご存じかどうかわかりませんが、もっと寝屋川というアプリですとか、公式のツイッターというのが寝屋川市にはございまして、そちらで昨年度から行事はすべてそちらで発信しているところです。</p> <p>そのアプリですとか、ツイッター・フェイスブックですね、そちらの方にも必ずリンク先がありますので、そこから図書館のページにとべるようになっております。</p>
秋山委員	<p>すいません、私あのツイッターとかあまりしないので、あまりわからないんですけども、たとえばぱっとみてわかりやすいホームページとかを独自でつくられたら、ちょっと目を引くようなちょっと可愛らしいデザインとか図書館専用のホームページとか今は、ございますでしょうか？</p>
事務局(坂口)	<p>図書館のホームページはございます。</p>
尾崎副委員長	<p>昔から、ありますよ。</p>
秋山委員	<p>すみません、ではあそこから蔵書検索？</p>
事務局(坂口)	<p>蔵書検索もできますし、行事も載っておりますし図書館だよりのバックナンバーとかもすべて載せております。</p>

秋山委員	すみません、勉強不足です。
上野委員長	ほかにありませんでしょうか？ はい、どうぞ。
高芝係長	17ページのところの。

【案件第6号、】

上野委員長	2節のところのですか？2節も含めてということで時間もありませんので…。 じゃあ2節の方も含めて、はい、どうぞ。
高芝係長	あの各校が連携し、学校図書館の蔵書数を把握する、各校が連携し、学校図書館の蔵書数を把握するは、どういったことでしょうか？
事務局(坂口)	学校司書の連絡会…。
高芝係長	連絡会はありますけれども、各校が連携して学校図書館の蔵書数を把握すること、これがどういったこと、蔵書数を把握しているのは、学校が独自で各校が把握はされているんですけども、それが今の体制では他の学校との連携は、特段関係していないのかなあというところ。
事務局(坂口)	前半のシステムのところとの関わりですね。
高芝係長	はい、その各校が管理なんなり帳簿や独自のシ

事務局（坂口）	<p>システムでは管理はしておりますけども、こういったことをさすのかなぁっと。</p> <p>こちらは、2次の評価の時に学校における推進がどうかとお問い合わせをさせていただいた時に、このあたりのことを考えていっているようなお答えをいただいたかと思います。</p>
高芝係長	<p>主語が何なのか、何をさしているのか。</p>
事務局（坂口）	<p>図書館なのか。</p>
高芝係長	<p>図書館が各校と連携しているのか、各校が連携しているのか、各校と連携しとの主語が、市と各校とが連携してその蔵書数、各校の蔵書数を把握していくという成果を書かせてもらった時はそういうつもりで書いています。</p> <p>でも次のところで各校が連携しって、なると…。</p>
事務局（坂口）	<p>主語がない。</p>
高芝係長	<p>これでいけば、各校が主語になれば。</p>
事務局（福谷）	<p>市と各校が連携し、というところで以下の文章は把握の作業はやっているということ。</p>
一柳委員	<p>「が」と「を」取り換えるだけで十分です、たぶん。</p>
高芝係長	<p>成果からいうとね、市が各校と連携しているとい</p>

	<p>うことでいけば、当然。</p>
上野委員長	<p>「が」と「と」のちがいですか？</p>
高芝係長	<p>そうですね。</p>
上野委員長	<p>「と」になれば、図書館がやっているあれですから。</p>
高芝係長	<p>はい。</p>
上野委員長	<p>がと、とのちがい。 よろしいでしょうか、他にどうでしょう ご意見どうぞ、今日はここまでで、時間になりますので、ご意見をどんどんおっしゃっていただきたいと思います。</p>
西村(直)委員	<p>15ページ、ちょっと戻ります、15ページの上から4つ目、団体貸出のところは今の状況を書いてはるんですけど、まあ今後の推進に関する取組みであれば、まあこういうふうに取り組を進めますという内容を書いていただく必要があるかと思えます。 あと、全般的にとくに第1節の書きぶりが、とくに地震の関係で施設がとまっている内容のところ非常に自分としては、なになにを検討しますという書き方が非常に多いのかなあと思うんですけども、やはり取組み推進していただく以上、なになにをしますとか、なになにを図りますとかっていうような次に向かう取組みを書いていただく必要があるので、検討しますって検討したものをここに書かな</p>

<p>上野委員長</p>	<p>いと本当はやっぱりおかしくなってくるのかなあつと。</p> <p>もう少し語尾とか中身の話もそうでしょうけど、整理されたほうがいいのかと思います、以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他には…はい、どうぞ。</p>
<p>谷口委員</p>	<p>全体的にというか教えてほしいんですけど…。</p> <p>法律に基づいて子ども読書計画という形で、子ども「子」と漢字を使っているでしょ</p> <p>商業とかなら、だいたいひらがなを使っていると思うんですけど、今回8月号の広報ねやがわで、こども図書館おとな図書館って出したんですが、そこにはひらがなで、こどもと書かれてたんですけども、その市庁部局では「こども」はひらがなで書くのと、教育委員会ではこどもの「子」を漢字で書くのは、なにか分けてるとかあるんですか？</p>
<p>上野委員長</p>	<p>全部ひらがなと漢字の子。</p> <p>広報では全部ひらがなですか。</p>
<p>谷口委員</p>	<p>はい、広報では、こども図書館とひらがなで書いてます。</p>
<p>事務局（福谷）</p>	<p>大変大事な案件かと思いますが、それではちょっと明快な回答がその場で即答が出来ないんですけども、第2次の時には市局としては漢字の子、どもはひらがなで答弁させていただいていると思います。</p>

谷口委員	<p>もちろん教育委員会として大阪府の読書計画自体も子は漢字を子を使ってて、寝屋川市もそういう流れで使用するんでしょうけど、その市の広報にあげてる時に、おとな図書館こども図書館ってうってる時に全部ひらがなになっていうのは、われわれ教育委員会として子ども読書計画をつくるにあたって、市庁部局に、それは、こどもの子をつかってくれというべきなのか。</p>
事務局（良）	<p>それはたぶんないと思う。</p>
谷口委員	<p>ないですよ。</p>
上野委員長	<p>いや、私たちの時は昔は子供の供ですよ、供が大人の供じゃないから、子だけはおいといて、どもは漢字そのお供の供はやめようということで、子は漢字で、どもはひらがなということで、私たちもずっと子どもと書くときは、こちらの資料のような表現。</p>
谷口委員	<p>そうですね、市庁部局の子育て支援の部局でしたら、こども園とか全部ひらがなになってます。</p>
尾崎副委員長	<p>あの、答えになっているかどうか分からないですけど、概して文科省以下府も市もそうなんですけど、教育委員会は、漢字の子を使います。</p> <p>あの主に厚生労働省管轄とかそういったところの例えば、保育所とか障害のあるこどもとかそういったところの部分は、わりとひらがなを使っておられることが多くて、ただそれはよく分からないです、</p>

	<p>正直。</p> <p>たぶん変えていることにほぼ意味はないと思うんですけど、慣例的に教育委員会系とそうじゃない系で変わっているような気がします。</p> <p>実際にそう試みていくと、見事にそうなんです、おそらく合理的な意味ではほぼないと思いますけど、そうなんです。</p> <p>ですから今回の場合でも、それでいくのであれば谷口さんがおっしゃってたように、図書館のほうで名前どうすんのってことは、いっぺん考えないとダメですよ。</p>
上野委員長	<p>考えるんですか。</p>
尾崎副委員長	<p>いや、だからたぶん誰も答えられないんだと思います。</p>
上野委員長	<p>そういうことね。</p>
西村(直) 委員	<p>意見で、上位の計画の総合計画においては、こどもの議論もありまして、そっちとしまして、こどものこは漢字、どもはひらがなで統一させていただいてます。</p> <p>さきほど副委員長がおっしゃってた未就学のようなイメージ保育の関係とか市庁部局の組織としては、ひらがなのこどもを使っております。一般的に18歳までのこどもは、漢字の子供を使うことが多い。</p> <p>特段何かしらのルールがあるものではないんですが、やはり一般的なところから市庁部局では漢字を</p>

	<p>使わしてもらっているので、計画ではとくに18歳未満ということなんですけれども、漢字を使っていたくことに問題はないと思います。</p>
上野委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、そろそろ時間もまいりましたので、他にご意見はございますでしょうか？</p>
谷口委員	<p>ちょっとよろしいでしょうか。</p>
上野委員長	<p>はい、どうぞ。</p>
谷口委員	<p>申し訳ないですが、全体的に体裁が段落の打ち方とかが悪いので、もうちょっと文書手引に応じた書き方で教育してほしいなと思います、以上です。</p>
上野委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
西村（直）委員	<p>時間がないところ申し訳ないです、3ページのところで完全に埋もれたんですけれども、文言のことだけです。</p> <p>あの下のところから、ちよぼ（・）の2段目といいますか障害のある子どもへの支援としてというところで、2行目ですね、「それだけにとどまっています」という文言に少し違和感を感じます。</p> <p>「絵本の蔵書数を増やすなどしましたが、それだけにとどまっています」、まあいろいろ取組みをされてきたと思うので、たとえば、さらなる読書環境の整備とか充実が必要ですか、それだけかかわっているという言葉はあえて使っていただく必要はな</p>

<p>上野委員長</p>	<p>いだろうということと、12ページの先ほど言いそびれたのですが、2番の計画の位置づけのところ、第五次総合計画の関係と社会教育推進計画の令和2年までの分を書いていただいているんですけど、いまだどちらの計画についても次期計画に向けて策定を進めておりますので、令和3年度からの計画であれば、その上位計画の次の計画を指して検討いただく、一体となって連携して策定しておるということでございますので、もう少し書きぶりを整理なされたほうがいいかなあと思いましたが、以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>では事務局のほう、よろしく願いいたします。</p> <p>また次の機会に検討ご意見などはよせていただけたらよろしいかと思っておりますので、一応今日は第2回目ですが、ご意見をたくさん出していただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>一応今日の審議については、これで終わらせていただきたいと思っております。</p> <p>最後に事務局から、どうぞよろしく願いいたします。</p>
--------------	--

【閉会】

<p>事務局（福谷）</p>	<p>本日は始終ご意見を賜りまして、ありがとうございます。</p> <p>貴重なご意見をいただきましたものを次回第3回でご提出できますように努めてまいります。</p> <p>ご指導よろしく願いいたします、それとともに次回第3回なんですけれども、実施予定は10月に開</p>
----------------	--

	<p>催させて予定を想定しております。</p> <p>それでもしよろしければ、10月の予定を今日限られた委員様でございますが、設定させていただきましたらありがたいかなあと、いかがでございますでしょうか？</p> <p>もしよろしければ、ご都合の悪いこの日だけは避けて欲しいとか。</p>
事務局(良)	<p>今日ご欠席の委員様がたくさんおられますので、とりあえずは決めさせていただいて、もしそれで流して、かなりまた都合がつかない場合は、再度調整という形でさせていただきたいと思います。</p> <p>で、いったんは決めさせていただくということで。</p>
事務局(福谷)	<p>10月でご都合の悪い日、この日だけはダメだよという日がありましたら、お教えいただきましたら…</p> <p>すみません、まだ2か月先になりますので遠いような早いような、また改めて仕切り直しということで、また調整させていただきます。</p>
上野委員長	<p>今までは、月曜か水曜だったように思うんですけども…。</p>
事務局(福谷)	<p>ありがとうございます。</p>
上野委員長	<p>曜日はどうなんでしょう。</p> <p>9月ではなく、10月なんですか？</p>
事務局(福谷)	<p>はい、10月に次は実施をさせていただく予定をしております。</p>

谷口委員	今年度は、決算委員会がおそらく早いので、19の月曜日の週が一番狙い目かなと思うんですけど。
事務局（福谷）	<p>はい、ご提案ありがとうございます。</p> <p>10月19の週で、どうでしょう。</p> <p>設定をさせていただきたく想定するんですけども…。</p> <p>すみません、ここで10月19の月曜日から23の週で設定をさせていただきたいと思いますので、またわかりましたら、ご連絡をさせていただきます。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p>